

第一回

京都の  
木の家  
づくり  
表彰作品集

# 目次

はじめに			1
総評 審査委員長 高田光雄			2
<b>最優秀賞・知事賞</b>			
SEIS・シネマカフェ（舞鶴市）	設計 施工	半海宏一建築設計事務所 株式会社大村工務店	3
<b>優秀賞</b>			
T邸（京都市北区）	設計 施工	株式会社住暮楽一級建築士事務所 株式会社住暮楽	4
K邸（京都市右京区）	設計・施工	株式会社竹内工務店	5
<b>奨励賞</b>			
時が経つごとに風合いが増す家（京都市西京区）	設計 施工	株式会社市川宣広一級建築士事務所 株式会社能見工務店	6
S邸（舞鶴市）	設計・施工	株式会社坂根工務店	7
空 KIREISM 東野舞台町モデルハウス（京都市山科区）	設計・施工	株式会社ロイヤル住建	8
K邸（京都市中京区）	設計 施工	株式会社住暮楽一級建築士事務所 株式会社住暮楽	9
朝来 G'S モデルハウス（舞鶴市）	設計・施工	ファイン.住宅株式会社	10
M邸（京丹後市）	設計・施工	中西建築	11
毛利長門西町の家（京都市伏見区）	施工	株式会社三原工務店	12
共働きの夫婦が暮らしやすい木の家（舞鶴市）	設計 施工	塩見工務店二級建築士事務所 有限会社塩見工務店	13
等持院の家（京都市北区）	設計 施工	半海宏一建築設計事務所 株式会社小野建築設計	14
花と木と人が集う家（京都市西京区）	設計・施工	株式会社小野建築設計	15
募集要領			16
京都の木のまち拡大事業			17

## — はじめに —

京都で育った木で家を作る。

住む人にとっても、地域の森にとっても、私たちを取り巻く環境にとっても心地よい事です。

京都府産木材利用推進協議会は、京都府が制定した京都府産木材認証制度に基づき、京都府知事により認定・登録された京都府産木材を供給する「取扱事業者」及び京都府産木材を使って建築に取り組む「緑の事業者」で組織する団体です。

協議会では、京都府産認証木材の推進に関する様々な事業に取り組んでいますが、今年度から、認証木材を使って建築された建物の表彰事業を行うこととしました。

第1回目の今回は、平成30年度の「環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業」と令和元年度の「緑の木のまち拡大事業」による京都府の交付金の交付対象となった約500棟の建物を対象に、応募推薦いただいた中から厳正な審査を経て、優秀な建築13点を表彰することとしました。

地域の森林で生産された木材を使って、木造建築を進めることは、再生産可能な森林資源の循環利用に役立つとともに、地域の木材産業が発展することにより、地域振興にもつながります。

さらに、近くの森林で育った木材を使うことは、はるばる遠くから運んでくることに比べ、輸送に伴って出される二酸化炭素の量も少なく、地球温暖化を防ぐ役割も果たしているといえるのです。

これからも京都府産木材の利用に皆様のご理解とご協力をお願いします。

主催 京都府産木材利用推進協議会

共催 京都府

後援 一般社団法人京都府建築士会／京都府建築工業協同組合／一般社団法人京都府木材組合連合会  
京都府森林組合連合会

## —— 京都の木の家づくり表彰事業・総評 ——

本年度から、京都府産木材を使用した京都にふさわしい家づくりの優良事例を表彰し、広く紹介することにより、環境にやさしい京都府産木材の利用促進を図ることを目的として、「京都の木の家づくり表彰事業」が新たにスタートした。この事業は、「環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業」または「緑の木のまち拡大事業」の助成を受けて府内で建築された建物（リフォームを含む）を対象としたものであり、府内全域から多数の応募をいただいた。

木材関係、建築関係などの専門家7名による審査委員会において、木材利用面、建築技術面、京の木の文化（地域環境と生活文化）の3つの側面からなる審査基準に従って議論を進めた。木材関係の委員からは、府内産木材の使用量、使い方（適材適所）、見せ方などについて、建築関係の委員からは、木の文化の解釈、内部空間と外部空間との関係、建築関係法令遵守への取り組み姿勢、技術的合理性、材料選定と納まりなどについて、多様な意見が出された。それらをふまえ、慎重に審議を重ねた結果、最優秀賞（京都府知事賞）1点、優秀賞2点、奨励賞10点を選定した。

最優秀賞に選定された作品は、舞鶴市に立地する木造のシネマカフェで、シンプルな建物ながら丁寧に設計され、京都府産木材を生かした、利用者にとって気持ちの良い建築のモデルとして高く評価された。優秀賞に選定された作品の一つは、京都市北区の市街地内の住宅で、様々な条件をうまく調和させ、木材の使い方、畳の空間の確保などにも工夫が見られ、居心地のいい住宅を実現している。もう一つの作品は、京都市右京区の和風住宅で、北山丸太を使用し、京都府産木材を生かした京都らしい住宅として評価された。奨励賞に選定された10件の作品は、いずれも、多様な地域において、地域特性に応じて設計、施工された木造住宅であり、京都府産木材の使い方や設計上の工夫などがそれぞれ評価された。

今後、京都府産木材をより一層上手く使いこなし、地域環境や生活文化など、京の木の文化を継承発展させる優れた建築が府内全域に浸透していくことを期待したい。

審査委員長 高田光雄

### 審査委員

委員長 高田光雄（京都美術工芸大学教授・京都大学名誉教授／一般社団法人京都府建築士会会長）

委員 白木隆志（京都府農林水産部林業振興課長）

木村忠紀（京都府建築工業協同組合理事長）

西田教子（一般社団法人京都府建築士会副会長）

森井一彦（京都府森林組合連合会代表理事専務）

愛甲政利（一般社団法人京都府木材組合連合会専務理事）

堀井誠史（京都府産木材利用推進協議会会長）



笹倉洋平 撮影



## SEIS・シネマカフェ

京都府内産木材使用量  
17.4771 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

半海宏一  
建築設計事務所  
京都府京都市中京区梅忠町 28  
M&Iビル 4F

[ 施工 ]

株式会社大村工務店  
京都府宮津市宮村 1123 番地

京都府の森林面積は府域の約 74% を占め、地域産木材を利用することは、地域林業の現状や担い手問題を身近に感じることができます。

建主の「若者離れの舞鶴から文化を発信したい、建築もそんな存在であって欲しい」とありがたい言葉を頂きました。何を創るかも大切ですが、何で造るかを問い、木造で大空間を造ることにしました。

今回は、六角形の建築で対角で約 9 m のスパンを飛ばす必要がありました。

そこで、地元の木材業者に一番流通している材料を確認すると、スギの 105 ミ

リ角の 4 m 材でした。これは通常 1 間を飛ばすときに用いる材料ですが、この流通材のみで木トラスを組み、4 m 材で無駄なくとれるように構造事務所と検討を重ね、寸法を決定しました。

材料を安価に仕入れられたことで、大工の手刻み（技術）で木トラスを造ることができました。中央上部のかぶら束に寄り添いながら構造を支えています。



## T邸 新築工事

京都府内産木材使用量  
7.5992 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社住暮楽一級建築士事務所

京都府京都市北区西賀茂柿ノ木町 25

[ 施工 ]

株式会社住暮楽

京都府京都市北区西賀茂柿ノ木町 25

木材利用面における工夫としては、外壁に挽き板と羽目板の2種類の板を使用していることです。

外壁に使用している挽き板は、製材所の大型鋸で挽いたままの板のことです。表面が荒い為、通常は仕上げ材としては用いられません。

しかしながら、安価に加工できることからコスト的に大面積に採用しやすくなります。

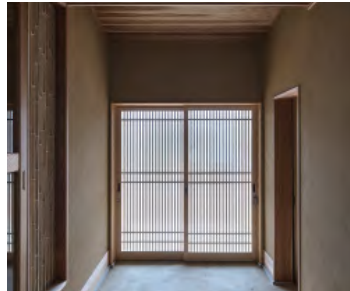
さらに、表面の粗さゆえに塗料をよく吸い込み、保護層が長持ちすることから耐久性が高くなるのが長所です。

そして一方、直射日光が当たらず、肌に触れやすいガレージ内には表面の滑らかな羽目板を使用しました。

クリア塗装とすることで杉板本来の色味のままとし、挽き板と色彩上のコントラストを持たせました。



内観写真 岡田大次郎 撮影



## K邸 新築工事

京都府内産木材使用量  
31.8225 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社竹内工務店  
京都府京都市右京区嵯峨釈迦堂門前  
瀬戸川町 4-7

[ 施工 ]

株式会社竹内工務店  
京都府京都市右京区嵯峨釈迦堂門前  
瀬戸川町 4-7

主要構造材は京都府内産のスギ・ヒノキを使用しています。

また、内装材として壁や床、天井の仕上げも一部京都府内産のスギの加工板としました。

玄関ポーチ土庇の柱やリビングの大張を受ける独立柱は北山磨丸太を、床の間は北山出絞丸太の床柱としました。

リビングの地松ゴロンボは、大工によるちよんがけを施しています。

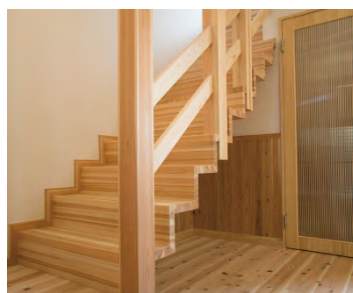
そして、建築現場の現風景に溶け込むように外観を考慮しています。

施主様から

「エアコンは使用するが出来れば自然エネルギーを利用し、環境に配慮したエコな住宅にしたい。」

「京都市の山々に囲まれた風景を存分に楽しめる建物で、また風景に溶け込んだ京都の町並みに合う建物にしたい。」

という思いをそのまま反映出来た建物だと思います。



## 時が経つごとに風合いが増す家

京都府内産木材使用量  
12.2375 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社市川宣広一級  
建築士事務所

京都府長岡京市城の里 13-1

[ 施工 ]

株式会社能見工務店

京都府長岡京市井ノ内頭本 15-8

次世代の育成のために、プレカットを使用せずに墨付け及び刻みで建築しました。刻みには約1か月かかり、その間には京都新聞から取材を受けました。

構造材に全て京都府内産木材を使用。内観に関しては、木の温もりに包まれた優しい空間を演出しています。吹き抜けに丸太梁と梁の木組みを表して出したり、吹き抜け部分を開けたり閉じたり出来る様に障子を入れたり丸窓で明かりを取るなどの工夫をしています。この丸太梁は3年間ほど乾かした松材です。

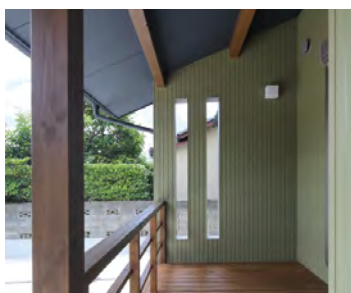
2階は家族構成の変化に伴って間取り

を変えられるように骨組みを組んで、柱1本だけ立てて間仕切りをしていません。

また、玄関先にあるウッドデッキには京北町の杉材を使用し、外と中に一体感を持たせています。

技術の進歩と次代の流れに従い様々な材料がでてきました。そんな中、京都の木材を使用し、京都の木の文化と伝統技術、最先端の建築技術を融合させて京都の自然に生かされたエコな暮らしができる家を作らせて頂きました。





## S 様 新築住宅工事

京都府内産木材使用量  
16.1746 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社坂根工務店  
京都府舞鶴市森 184 番地の 3

[ 施工 ]

株式会社坂根工務店  
京都府舞鶴市森 184 番地の 3

施主様の屋根が大きく自然に溶け込むような雰囲気の家をしたいというご要望と、奥様から収納が多くて室内外で洗濯物が干せるスペースが欲しいというご要望を反映しました。

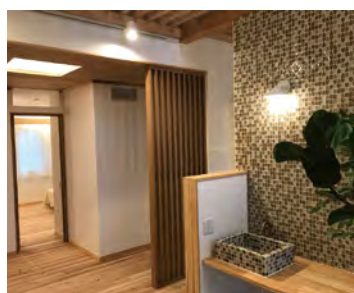
まず、土台・大引・通し柱・和室造作材・ウッドデッキ等はヒノキ、管柱・間柱・羽柄材・壁天井下地等にスギを利用しました。床の合板はヒノキ・スギの構造用合板を利用しています。

特徴的なのは屋根の軒を深くして陽ざしをコントロールし、窓の配置を考慮することで風を繰り、太陽と風を素直に取り

入れた間取です。そして、府内産木材を各所に表すことで自然を感じることができます。

茶道とともに発展した数寄屋建築には、美しい日本の四季を取り入れる発想があります。太陽と風、光と木の香り、自然と調査することで、快適で健康的な環境を創り出す。創業 180 周年の当社はその数寄屋建築の発想を受け継いでいます。

自然を活かし季節を感じることでできる家は、大切な家族の健康を守ります。



## 空KIREISM 東野舞台町 モデルハウス

京都府内産木材使用量  
21.395 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社ロイヤル住建  
二級建築士事務所

京都府京都市山科区勤修寺東栗栖野  
町 17-10

[ 施工 ]

株式会社ロイヤル住建  
京都府京都市山科区勤修寺東栗栖野  
町 17-10

木の温もりを五感で感じながら、そこに住まう人が健康で未永く暮らせる家づくりをコンセプトに設計しました。

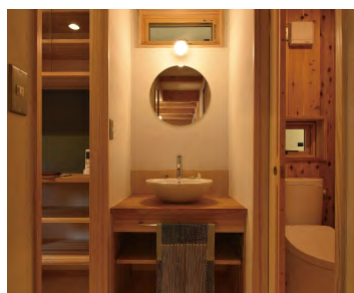
住宅の最重要課題は、住む人の健康であるという哲学をどんな時も忘れずに研究と実践を繰り返し、弊社が持つ経験・知識・技術を駆使しながら、この家が誕生しました。

一年を通して安定した温度である地中熱を利用した全室換気システムを採用し、パッシブエネルギーを積極的に取り入れることで冷暖房を必要最小限のエネルギー消費とし、一年を通して室内の温

度差を軽減した快適な温湿度環境に保ちます。

夏は日射遮蔽を考慮した軒の出、中間期は季節の卓越風を考慮した窓の配置と間取り、冬は日射取得を考慮した蓄熱素材の採用と室内の水蒸気を逃がさない気密と断熱の工夫。

他にも様々な知識と工夫を取り入れながら性能向上を行うことで資産価値を高め、将来にわたって基本性能を落とすことなく後世に残せる家を目指しました。



## K 邸 新築工事

京都府内産木材使用量  
6.6431 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社住暮楽一級建築士事務所

京都府京都市北区西賀茂柿ノ木町 25

[ 施工 ]

株式会社住暮楽

京都府京都市北区西賀茂柿ノ木町 25

木材利用面での特徴は、準防火地域の3階建てにも関わらず外部に焼杉板等の材料を使用し、内部に柱等の構造材を現しとした点です。

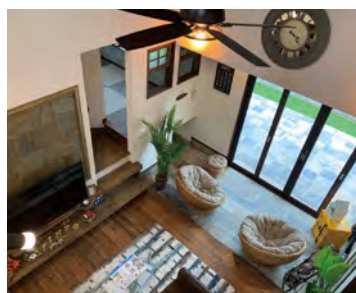
一般的に準耐火建築物にすることが選択されることから内外観共に木を見せることを制限される場合が大半です。

しかし、今回は建築基準法施行令 136 条の 2 の基準に基づき、構造材に 4 寸材を用いて開口部等を制限するなどの基準を満たすことで、内部の構造材を現しとし、外装材に無垢板を使用できるように計画しました。法律上の制限が厳しい場合でも工夫次第で

無垢板の使用が可能になります。

外壁に使用した焼杉板は、杉板表面を焼き炭化させた上でサンドペーパーをかけ、予め剥離しやすい部分を落としました。その上でクリア塗装を施すことで従来品よりもメンテナンスの頻度を下げています。

無垢材を外部利用する際、最も問題視されることが耐久性であることから、こういった配慮は木材利用の可能性を広げるものです。



## 朝来G'S モデルハウス

京都府内産木材使用量  
17.1 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

ファイン. 住宅株式会社  
京都府舞鶴市字福来 112 番地

[ 施工 ]

ファイン. 住宅株式会社  
京都府舞鶴市字福来 112 番地

構造材、内装材、下地材には、京都府内産の木材を積極的に使用しました。

外観は平屋のカフェ風の建物。

中に入ると広く2階建て。

どの部屋にいても生活の音や家族の声が聞こえる暖かい家！

木の香りが温もりのある心地よい空間となっています。

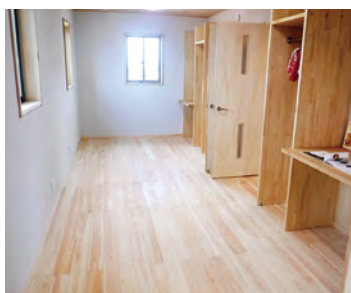
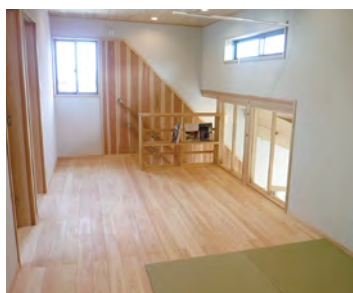
リビングは床と吹抜けの天井に無垢の板を使用しました。

温もりの中にも落ち着いた色合いで、高級感のある素敵なリビング。

また、壁にはスペイン漆喰を塗ることで、

空気を浄化し、さらに空調機器も全館空調を採用することにより、『空気をおいしく食べられる家』になっております！

『花粉症、喘息、アトピー』などのシックハウス症候群の方、ありとあらゆるアレルギーの方は弊社モデルハウスにご相談にお越しください。



## M邸 新築一般住宅

京都府内産木材使用量  
36.2966 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

中西建築

京都府京丹後市久美浜町神埼 1910

[ 施工 ]

中西建築

京都府京丹後市久美浜町神埼 1910

地元京丹後市産の木材を使用し、当地方の風土になじむ快適性・機能性を発揮する木の良さが醸し出されるように仕上げました。

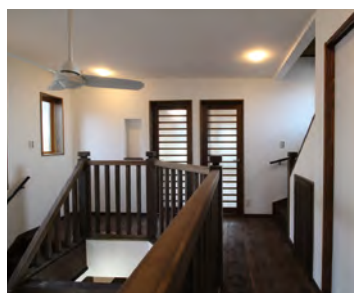
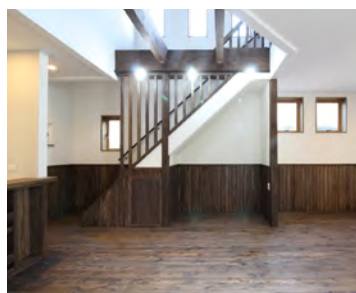
多くのスギ・ヒノキ等の木材を使い、厳選された木材を、柱材や天井材及び床材として活用しました。

木目の美しさ、色、つやを肌で感じられるよう細心の注意を払いました。

そして、木の温もりを体感できる空間づくりとしてのLDK、子ども室、多目的スペース等を設け、家族がくつろぎ、憩う生活の場としての家を創り上げました。

また、家づくりに対する施主の考えを、設計・施工に当たっても生かすように心掛けながら、一つひとつの材質にこだわり、地元京丹後市の久美浜町内で育てられ、地元業者が搬出、製材加工した木材を使用しました。

地元産木材に囲まれ、木の特長を引き出す居住空間の整備を図りました。



## 毛利長門西町の家

京都府内産木材使用量  
14.1005 m<sup>3</sup>

[ 施工 ]

株式会社三原工務店  
京都府京都市伏見区深草新門文町  
164-1

私たちは、「住まいづくりは健康づくり」と考えています。  
まず第一に、「太陽熱エネルギーを活用して24時間床暖房と給湯ができる家」として、ハイブリッドソーラーハウスと365日稼働の空調設備を備えました。  
そしてさらに「自然素材をふんだんに使い、木の香りのする家づくり」にも取り組みました。  
特に京都府内産の木材は、スギ、ヒノキ、

マツなどを利用しております。  
私たちは、京都府内産の木材を消費することで、林業で生活される人の下支えとなることを願っています。



## 共働きの 夫婦が暮らし やすい木の家

京都府内産木材使用量  
30.2633 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

塩見工務店二級建築士  
事務所

京都府舞鶴市南田辺 90-2

[ 施工 ]

有限会社塩見工務店

京都府舞鶴市南田辺 90-2

地元で育った木を使って家づくりをすることが、地球環境にとっても木にとっても家にとってもそこに暮らすお客様にとっても一番良い!という思いのもと、建物の95%は京都府産の木材を使用しています。適材適所に木材を選び、温もり調湿性、経年変化など木の魅力・大工の技術を活かし長期的に安心・快適に暮らせる家づくりにしました。

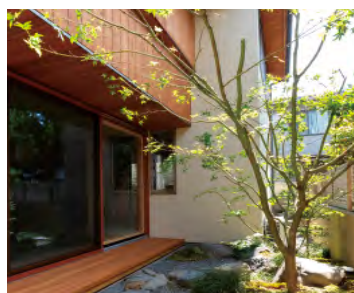
外観は周辺の景観を損なわないよう、壁はガルバニウム鋼板と木を使い、スタイリッシュにしました。

また内装は、適材適所の収納計画・回

遊性のある家事動線を考えて設計。

そして、家族が集まり笑顔で過ごせるリビングにしました。杉の床に寝ころび、天井を見上げると木が日々の疲れを癒やします。リビングに面して子どもの成長を刻むヒノキの7寸角の柱を配置しました。

家事動線を縮めることで、お子様と触れあう時間が取れ、家族が仲良く暮らせる。これからの時代には大切な要素だと考えます。



## 等持院の家

京都府内産木材使用量  
2.1571 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

半海宏一

建築設計事務所

京都府京都市中京区梅忠町 28  
M & Iビル 4F

[ 施工 ]

株式会社小野建築設計

京都府京都市西京区大原野上里南ノ  
町 10

床材（杉）、外壁（杉）、軒裏（杉）に府内産材を利用しています。

シンプルでプロポーションの良い美しい外観。

ガレージの入口は格子戸とし、景観に配慮しました。

外壁と軒裏は上小節で、節のない均一な表情が家を落ち着いた雰囲気にしています。

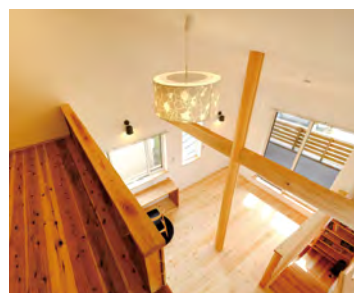
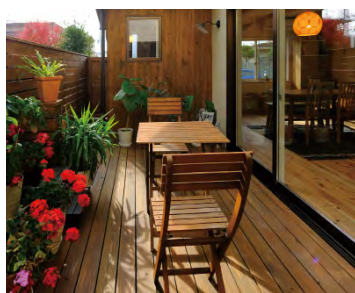
それに対して内装は、杉の柔らかさと畳の踏み心地が、裸足で歩くのが気持ちが良い家です。

化粧の木を加工して使う大工技術、そ

れを存分に発揮できる造作や現場加工の多い設計士のプランとしました。

うなぎの寝床と呼ばれる京都独特の間口が狭く奥行が長い敷地に、伝統の京町屋の良さ（中庭や、奥に行くほどプライベートな間取り）を踏襲し、現代の暮らしに沿った、現代の京町屋として建築しました。





## 花と木と人が 集う家

京都府内産木材使用量  
16.3833 m<sup>3</sup>

[ 設計 ]

株式会社小野建築設計  
京都府京都市西京区大原野上里南ノ  
町 10

[ 施工 ]

株式会社小野建築設計  
京都府京都市西京区大原野上里南ノ  
町 10

構造材、床、外壁、軒裏、天井に府内産材を利用しています。

木に囲まれた暮らしには、クロス壁に囲まれて暮らすよりも、温さがあります。実際よりも狭さを感じず、毎日空気も美味しいです。

家の中は、柔らかい杉床を使っています。足に優しく、裸足での感触も良く、冬も冷たさを感じません。

大黒柱は、お施主様が京都市北区中川まで行って磨いた記念の北山磨丸太を使用しています。そこへ化粧の梁をかけています。

そして2階は、お施主様の居室で、ふんだんに木を使っています。

遊び心がある隠れ家のような楽しい雰囲気を目指しました。

さらに、2階の勾配天井に架かるその梁の上は、現在は猫ちゃんたちの居場所になっています。

リビングの大開口から続くウッドデッキにはお施主様の大切な花木たちが並んでいます。キッチンやリビングから綺麗な姿がいつも目に入ります。そして、見上げれば軒裏の杉が見え、温かい印象と安らぎを感じることができます。

## 第1回 京都の木の家づくり表彰事業 実施要領

## 1 趣 旨

京都府産木材を使用した京都にふさわしい家づくりの優良事例を表彰し広く紹介することにより、環境にやさしい京都府産木材の利用拡大を図る。

## 2 募 集

- (1) 府内において、全部又は一部に府内産木材を有効に利用して建築された住宅等について募集する。  
募集要件は、「環境にやさしい京都の木の家づくり支援事業（平成30年度まで）」または「緑の木のまち拡大事業（令和元年度から）」の対象建築、リフォーム含む
- (2) 対象となる物件は、平成30年～令和元年（応募締め切りまで）に京都府産木材を利用して府内で建築され竣工した建物
- (3) 応募方法は、次のとおりとする。  
京都府産木材利用推進協議会会員（取扱事業体及び緑の事業体）又は設計者からの推薦（設計・施工者としての自薦を含む）

## 3 表 彰

- (1) 表彰対象  
審査委員会で決定された優良施設について、施主、設計者、施工者の三者を表彰する。
- (2) 表彰の種類  
次の賞ごとに賞状、副賞（賞金）及び銘板を交付する。
- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 最優秀賞・京都府知事賞（賞金10万円） | 1点以内  |
| 優秀賞（賞金3万円）          | 2点以内  |
| 奨励賞                 | 10点程度 |
- (3) 表彰の実施  
ア 表彰は、京都環境フェスティバルで行う。  
イ 賞状は、審査委員会で選定された施設等の施主、設計者、施工者の三者に交付する。

## 4 審 査

- (1) 審査委員会  
審査委員会は、建築設計及び木材利用分野の専門家及び学識経験者等で構成する。
- (2) 審査方法  
審査は、
- ① 木材利用（新規性・PR効果・有効活用・利用拡大）
  - ② 建築技術
  - ③ 京の木の文化（地域環境と生活文化）
- などについて、別に定める審査基準に基づいて総合的に判定する。
- (3) 審 査  
一次審査及び二次審査により行い、必要に応じて現地審査を行う。

## 5 応募方法

推薦者は下記の書類等を事務局まで提出する。

- (1) 提出する書類等
- ① 推薦調書
  - ② 施設等の図面 付近見取図（縮尺1/2,500程度）、配置図、各階平面図、4面立面図、断面図（1面以上）をA3サイズで添付すること
  - ③ 写真（遠景写真1枚以上、外観2面以上、室内2枚以上）
- (2) 提出された書類等の扱い  
提出された書類及び写真については、コンクールの目的のために使用するが、写真については、推進協議会が府内産木材の利用推進を目的に使用することがある。





岡田大二郎 撮影



笹倉洋平 撮影

主催 京都府産木材利用推進協議会  
共催 京都府  
後援 一般社団法人京都府建築士会  
京都府建築工業協同組合  
一般社団法人京都府木材組合連合会  
京都府森林組合連合会